

令和6年度

学 力 向 上 プ ラ ン
【後期】

上尾市立平方東小学校

目 次

上尾市立平方東小学校 学力向上プラン「グランドデザイン」	1
1 学力調査結果の概要	
(1) 上尾市立小・中学校学力調査（令和5年12月実施） 【2～6年：国語、算数】	2
(2) 全国学力・学習状況調査（令和6年4月実施） 【6年：国語、算数】	7
(3) 埼玉県学力・学習状況調査（令和6年4、5月実施） 【4～6年：国語、算数】	8
2 学力向上を図る取組	
(1) 各教科の授業における取組	10
(2) 教育活動全体を通じた取組 本校の特色ある取組 家庭教育との連携	13

上尾市立平方東小学校 学力向上プラン「グランドデザイン」

学校教育目標

- よく考え進んで学ぶ子
- 明るくなかよく助け合う子
- たくましくがんばりとおす子

学校課題研究主題

「外国語に慣れ親しみ、主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成」

学力・学習状況調査の結果

R6 全国学力・学習状況調査	R6 埼玉県学力・学習状況調査	R5 上尾市立小・中学校学力調査
<ul style="list-style-type: none"> ・国語、算数ともに平均正答率は全国平均より高い。 ・国語は、読むに課題があり、登場人物の心情を基に捉える問題を苦手としている。 ・算数は、図形に課題があり、直径や円周の長さ、円周率に関する問題を苦手としている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力レベルの平均は、国語も算数も県平均と大体同レベルとなっている。 ・国語、算数ともに、学力を伸ばした児童の割合は、埼玉県の平均を下回っている。 ・非認知能力の認知的方略と努力調整方略の項目の数値が埼玉県と比較して低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語では、書くことについての正答率が低い。また、思考・判断・表現の観点で問われる問題を苦手とする学年がある。 ・算数では、数と計算の領域の正答率が低く、思考・判断・表現を問う記述問題を苦手とする学年がある。

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
<ul style="list-style-type: none"> ① 基礎的・基本的な知識を確実に身に付ける力。 ② 既習の知識をもとにして、新たな知識を習得する力。 	<ul style="list-style-type: none"> ③ 話の内容を的確に読み取る力。 ④ 情報を取捨選択したり、比べたりする力。 ⑤ 理由や根拠を付けて自分の考えを書いたり、発表したりする力。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑥ 学習に粘り強く取り組み、自分の考えを出そうとする力。 ⑦ 学習した内容を実生活に結び付けて、考えようとする力。 ⑧ 学習の見通しを立てたり、振り返ったりする力。

学力向上のための授業改善

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
<ul style="list-style-type: none"> ・国語では、言葉の特徴や使い方を正しく理解させるために、授業の始めや終わりに、漢字や言葉の意味を辞書等を使って確認させる。また、原因と結果など情報と情報との関係について理解する時間を設定する。 ・算数では、図形について正しく理解させるために、ICT端末で視覚的に理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語では、話の内容を理解させるために、話を読んで要約をする活動を多く取り入れる。そして、自分の考えを、理由を付けて書いたり、発表したりする時間を設定する。 ・算数では、変化と関係についてより理解を深めさせるために、自分の言葉でノートに書かせたり、言葉で発表させたりする時間を取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語では、言葉の特徴や使い方を学ぶ態度を育てるために、分からない言葉を辞書で調べる機会を設定する。 ・算数では、振り返りにおいて、学習したことやそれを日常生活に生かすことを考えて、振り返りを書かせる。

本校の特色ある取組

- 業前学習(いきいきタイム)の充実
- 児童の課題に合った問題作成 (算数のたまたて箱)
- 読書活動の充実
- 言語環境の整備
- 外国語・外国語活動・英語活動の授業改善

家庭教育との連携

- 家庭学習、家庭読書の習慣化
「がんばろう家庭学習」
(太平中学校区の小中一貫教育の取組)
- デジタル教材、ICT端末の活用
「まなびポケット」「e-board」活用推進

1 学力調査結果の概要

(1) 上尾市立小・中学校学力調査(令和5年12月実施)

2年(令和6年度3年)【国語】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		△	○基礎は7.3ポイント、活用は7.2ポイント目標値を上回っており、基本的な学力は定着している。 ●「話を聞きとる」が目標値を1.7ポイント上回っているが、課題が見られる。
基礎・活用	基礎	△	
	活用	△	
観点	知識・技能	△	要因分析 ・日々の学習の中でも、話を聞く経験が不足していることによるものと思われる。
	思考・判断・表現	△	
	主体的に学習に取り組む態度	△	
国語科の重点目標	・段落の役割について理解し、まとまりのある文章を書く力の育成。 ・情報の要点を聞き取る力の育成。		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	話を聞き取る	話し手が知らせたいことを落とさないように聞いている。	話し合いの際、自分の意見と友達の意見の同じところに着目して聞く活動を繰り返し行わせる。
②	文章を書く	自分の思いや考えが明確になるように、文章を書いている。	振り返りや感想を書かせて、国語の書く活動や他教科で指導する。

2年(令和6年度3年)【算数】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		△	○基礎は5.1ポイント、活用は4.6ポイント目標値を上回っており、基本的な学力は定着している。 ●「3けた+2けた=3けた」が目標値を8.3ポイント下回っていて、課題が見られる。
基礎・活用	基礎	△	
	活用	△	
観点	知識・技能	△	要因分析 ・繰り上がりにつまずいている児童がいるためである。
	思考・判断・表現	△	
	主体的に学習に取り組む態度	△	
算数科の重点目標	・文章題を読み取り、基礎・基本の学習内容を活用する力。		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	たし算	3けた+2けた=3けた(繰り上がり1回)の計算ができる。	たし算(繰り上がりあり)の仕方を定期的な確かめ、繰り返し問題を解く。
②	ひき算	減法の記事問題(求残の場面)を表した図を理解している。	ひき算の仕方を定期的な確かめ、繰り返し問題を解く。

評価について

△	目標値を上回る
≒	目標値と同程度
▼	目標値を下回る

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

3年(令和6年度4年)【国語】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)	
教科全体		▼	○漢字の読むの正答率が目標値を3.7ポイント上回った。 ●全ての観点で目標値を下回った結果であった。特に主体的に学習に取り組む態度が9.6ポイント目標値を下回っている。また文章を書くこと、漢字を書くことに大きく課題がある。	
基礎・活用	基礎	▼	要因分析	
	活用	▼		
観点	知識・技能	▼	・日々の学習の中でも、粘り強く頑張り切れない児童が多い。文章を書く活動の中でも既習の漢字を使わずに書くことが多いため、漢字の習熟に繋がらない。	
	思考・判断・表現	▼		
	主体的に学習に取り組む態度	▼		
補足	【目標値】学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものを。		△	目標値を上回る
国語科の重点目標	・段落の役割について理解し、まとまりのある文章を書く力の育成。 ・情報の要点を聞き取る力の育成。		≒	目標値と同程度
			▼	目標値を下回る
重点的に取り組む学習内容				
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て	
①	漢字を使って文章を書く	漢字の定着や文章の中で漢字を使う。	日々のノートで漢字を使うよう繰り返し指導する。	
②	文章を書く	正しい段落構成や、指定された長さで文章を書く	日記の家庭学習や、国語の書く活動で指導する。	

3年(令和6年度4年)【算数】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)	
教科全体		▼	○1万より大きい数の正答率が目標値を1.4ポイント上回っています。 ●全ての観点で目標値を下回った結果であった。わり算が9.1ポイント、長さは11.2ポイント平均値を下回っている	
基礎・活用	基礎	▼	要因分析	
	活用	▼		
観点	知識・技能	▼	・基礎的な計算などが習熟不足なことにより、新しい単元の学習にも主体的にできないことが考えられる。重さや長さの単位など基礎的な知識の獲得が足りない。生活の中で単位を使う経験も乏しいと考えられる。	
	思考・判断・表現	▼		
	主体的に学習に取り組む態度	▼		
補足	【目標値】学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものを。		△	目標値を上回る
算数科の重点目標	・文章題を読み取り、基礎・基本の学習内容を活用する力。		≒	目標値と同程度
			▼	目標値を下回る
重点的に取り組む学習内容				
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て	
①	測定	問題に合った単位を選択し、必要に応じて単位の換算をする。	算数の玉手箱等を活用し、くり返し、復習のプリントなどを授業や家庭学習の課題とし、取り組ませる。	
②	わり算	九九とわり算の仕方の定着	九九の暗唱や、わり算の仕方のたしかめ等を折りに触れて定期的に行う。	

評価について

△	目標値を上回る
≒	目標値と同程度
▼	目標値を下回る

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

4年(令和6年度5年)【国語】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)	
教科全体		△	○基礎は3.4ポイント、活用は2ポイント目標値を上回っており、基本的な学力は定着している。	
基礎・活用	基礎	△	●話すこと・聞くことは5ポイント、書くことは8.9ポイント目標値を下回っており課題が見られる。	
	活用	△		
観点	知識・技能	△	要因分析	
	思考・判断・表現	▼	・伝えたいことを明確にし、順序立てて書いたり、分かりやすい言葉にまとめたりする活動が不足していると考えられる。	
	主体的に学習に取り組む態度	▼		
補足	【目標値】学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものを。		△	目標値を上回る
国語科の重点目標	・段落の役割について理解し、まとまりのある文章を書く力の育成。 ・情報の要点を聞き取る力の育成。		≒	目標値と同程度
			▼	目標値を下回る
重点的に取り組む学習内容				
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て	
①	話し合いの内容を聞き取る	司会の役割を果たしながら話し合い、意見の相違点に着目している。	話し合いの際、自分の意見と友達の意見の相違点に着目する活動を繰り返し行わせる。	
②	文章を書く	段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いている。	決められた段落構成に従って書く活動を繰り返し行わせる。	

4年(令和6年度5年)【算数】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)	
教科全体		△	○基礎は1.8ポイント、活用は0.4ポイント目標値を上回っており基礎は定着している。	
基礎・活用	基礎	△	●変化と関係は3.2ポイント目標値を下回っており課題が見られる。	
	活用	△		
観点	知識・技能	△	要因分析	
	思考・判断・表現	▼	・2つの数量の関係を元の大きさとの関係を考えながら比べる活動が不足している。	
	主体的に学習に取り組む態度	△		
補足	【目標値】学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものを。		△	目標値を上回る
算数科の重点目標	・文章題を読み取り、基礎・基本の学習内容を活用する力。		≒	目標値と同程度
			▼	目標値を下回る
重点的に取り組む学習内容				
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て	
①	計算のきまり	計算のきまりを理解し、式にあった文章問題を選んでいく。	文章の内容を図や表に表してから立式する。	
②	小数	小数を用いて重さの単位換算ができる。	単位の数量換算に繰り返し取り組む。	

評価について

△	目標値を上回る
≒	目標値と同程度
▼	目標値を下回る

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

5年(令和6年度6年)【国語】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)	
教科全体		≒	○基礎は2.1ポイント、活用は6.8ポイント目標値を上回っており、基本的な学力は定着し安定している。	
基礎・活用	基礎	≒	●言語文化が-12.1ポイント、書くことに関する項目が、-0.8ポイントと-7ポイントで下回っている。	
	活用	△		
観点	知識・技能	≒	要因分析	
	思考・判断・表現	≒	・文章を書くことに対する苦手意識や、文章構成の基礎的基本的な能力の不十分さが要因であると考えられる。	
	主体的に学習に取り組む態度	≒		
補足	【目標値】学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したもの。		△	目標値を上回る
国語科の重点目標	・段落の役割について理解し、まとまりのある文章を書く力の育成。 ・情報の要点を聞き取る力の育成。		≒	目標値と同程度
			▼	目標値を下回る
重点的に取り組む学習内容				
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て	
①	文章構成の基礎基本の習得	3つの段落の要点を明確にしている。	作文メモを活用し、それぞれの段落へ書く内容を焦点化し明確にする。	
②	各段落への補足	各段落の要点に補足を加えている。	加えたい内容を聞き取り、文章化したものを検討する作業を繰り返し行う。	

5年(令和6年度6年)【算数】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)	
教科全体		▼	○「整数のなかま分け」は0.4ポイント上回っている。	
基礎・活用	基礎	▼	●基礎は-9.7ポイント、活用は-11.7ポイントと大きく下回っている。	
	活用	▼		
観点	知識・技能	▼	要因分析	
	思考・判断・表現	▼	・観点の中でも「主体的に学習に取り組む態度」に課題があり、算数に対する苦手意識が考えられる。また、内容では、体積などの空間図形に課題があり、空間認知に課題があると考えられる。	
	主体的に学習に取り組む態度	▼		
補足	【目標値】学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したもの。		△	目標値を上回る
算数科の重点目標	・文章題を読み取り、基礎・基本の学習内容を活用する力。		≒	目標値と同程度
			▼	目標値を下回る
重点的に取り組む学習内容				
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て	
①	空間図形の構成要素を把握する	複合的な図形を正確に分割する。	具体物やデジタル教科書、ICTを活用し、分割するイメージを積み重ねていく。	
②	正確な四則計算の習得	四則計算を正確に行っている。	百マス計算を活用したかけ算九九の繰り返し練習や、確かめ算の習慣化を行っていく。	

評価について

△	目標値を上回る
≒	目標値と同程度
▼	目標値を下回る

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

6年(令和6年度中学校1年)【国語】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)	
教科全体		≒	○各項目で目標値とほぼ同程度が2ポイント程度の差で、基本的な学力は定着できている。	
基礎・活用	基礎	▼	●漢字を読むことはできるが、書くことに課題がある。	
	活用	△	●説明文の読み取りに課題がある。	
観点	知識・技能	▼	要因分析	
	思考・判断・表現	≒	・日々の学習の中で、長文を読んだり、要旨をおさえながら筆者の意図を捉えたりする活動が不足していると考えられる。	
	主体的に学習に取り組む態度	≒		
補足	【目標値】学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したもの。		△	目標値を上回る
国語科の重点目標	・段落の役割について理解し、まとまりのある文章を書く力の育成。		≒	目標値と同程度
	・情報の要点を聞き取る力の育成。		▼	目標値を下回る
重点的に取り組む学習内容				
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て	
①	漢字を書く	第5学年に配当されている漢字を正しく書いている。	文章の中で普段から既習漢字を使うよう指導する。	
②	説明文の内容を読み取る	文章全体の構成を捉えて、要旨を把握している。	長文を読んだり、要旨をおさえながら筆者の意図を捉えたりする活動を繰り返し行う。	

6年(令和6年度中学校1年)【算数】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)	
教科全体		▼	○図形の領域は拡大図と縮図、面積と体積、対称な図形全てで目標値を超え、定着が見られた。	
基礎・活用	基礎	▼	●変化と関係の領域は目標値を7.6ポイント下回っており、課題がある。	
	活用	≒		
観点	知識・技能	▼	要因分析	
	思考・判断・表現	▼	・日々の学習の中で、文章題の練習問題に取り組む活動が不足していると考えられる。	
	主体的に学習に取り組む態度	▼		
補足	【目標値】学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したもの。		△	目標値を上回る
算数科の重点目標	・文章題を読み取り、基礎・基本の学習内容を活用する力。		≒	目標値と同程度
			▼	目標値を下回る
重点的に取り組む学習内容				
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て	
①	比と比の値	比を使って、一方の量から全体の量を求めている。	問題文から立式する練習を繰り返し行う。	
②	分数のかけ算・わり算	真分数÷真分数×仮分数の計算ができる。	約分の練習を徹底的に行う。	

評価について

△	目標値を上回る
≒	目標値と同程度
▼	目標値を下回る

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

(2) 全国学力・学習状況調査(令和6年4月実施)

国語

考察(問題と結果の分析)

・話すこと、聞くことについてはできている。一方、書くこと、読むことに課題があり、記述問題の中でも、心に残ったこととその理由を書くことに課題がある。

課題の要因分析

・登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることを苦手としており、登場人物の心情を正確に捉えられないため、心に残ったことやその理由を考えることが難しくなっている。そのため、場面ごとの丁寧な登場人物の心情把握が必要になる。

算数

考察(問題と結果の分析)

・データの活用は比較的できているが、図形の性質や、その特徴を問う問題を苦手としている。また、除数が小数である割り算についても課題がある。

課題の要因分析

・図形を構成する要素や図形の性質について、さらに理解を深める必要がある。
・除数が小数である場合、間違えずに答えの位取りをすることに課題がある。

(3) 埼玉県学力・学習状況調査(令和6年4、5月実施)

※主な参考資料 帳票09、40

国語

学年	学力レベル				学習方略					非認知能力		
	R6レベル	昨年度からの伸び(+or-)	R5レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	向社会性	
4年	校内	5-C		R6数値	3.7	3.6	3.4	3.8	3.9	3.8	3.8	
	県	5-B		伸び +or-								
	<p>1 考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする))</p> <p>・学力レベルは県より1段階低いレベルである。学習方略と非認知能力については、認知的方略と向社会性が、県より-0.2低くなっている。 ・必要な情報を捉え、書き留める問題の正答率が県平均より約20.8ポイント低く、認知的方略が3.8ポイント以下の児童は、この問題について72%以上の児童が誤答か、無回答であった。</p> <p>2 成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする)</p> <p>・努力調整方略や自己効力感、県と同程度の数値となったことから、努力を調整したり、自分に自信をもって課題に取り組んだりすることについては県平均程度もっていたり、できていたりすると考えられる。一方で、「必要な情報を捉え、書き留める問題」や認知的方略が課題となっていることから、問題をよく読み、必要なことを書き出す問題に多く取り組んでいく。</p>											
学年	学力レベル				学習方略					非認知能力		
	R6レベル	昨年度からの伸び(+or-)	R5レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	自制心	
5年	校内	6-A	1	6-B	R6数値	3.8	3.8	3.3	4.1	4.0	3.8	4.1
	県	6-B	1	6-C	伸び +or-	0.3	0.1	0.0	0.2	-0.1	-0.1	0.1
	<p>1 考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする))</p> <p>・学力レベルは県より1段階高いレベルである。学習方略と非認知能力については、作業方略が、昨年より-0.2低くなっている。 ・手紙の構成を理解する問題の正答率が県平均より約10.6ポイント低く、この問題で誤答だった児童は、努力調整方略が平均して-0.2低くなっている。</p> <p>2 成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする)</p> <p>・学習方略の中で特に柔軟的方略と認知的方略がやや高い傾向にある。このことから、今まで学習したことを生かして学習に取り組むことができていると考えられる。「読むこと」の領域では県平均を8ポイント以上も上回っている。内容を頭に浮かべながら問題を解くことができている児童の割合が多いと考えられる。学習方略の努力調整方略と非認知能力の自己効力感が県平均よりやや低い傾向にある。問題に取り組む際には、今まで学習したことと関連付けながら学習するよう声かけを行うとともに、先生や友達に聞く時間を確保することで、自分にとって難しい問題であっても、あきらめずに最後まで取り組ませ、努力調整方略を高めていく。そうすることで自己効力感も高まっていくと考える。</p>											
学年	学力レベル				学習方略					非認知能力		
	R6レベル	昨年度からの伸び(+or-)	R5レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	やりぬく力	
6年	校内	7-C	0	7-C	R6数値	3.7	3.5	3.3	4.0	3.6	3.4	3.0
	県	7-C	0	7-C	伸び +or-	0.5	0.2	0.0	0.1	-0.2	0.0	0.0
	<p>1 考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする))</p> <p>・学力レベルは県と同等のレベルである。学習方略と非認知能力については、努力調整方略と自己効力感が、県より-0.3低くなっている。 ・慣用句の意味を理解し、適切に使う問題の正答率が県平均より約26.4ポイント高い。一方で、文章の構成を理解するなど読むことに関する問題の正答率が県平均より5ポイント程度低い。この問題で誤答だった児童は、努力調整方略が平均して-0.4低くなっている。</p> <p>2 成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする)</p> <p>・学習方略の中で特に柔軟的方略と認知的方略がやや高い傾向にある。このことから、今まで学習したことを組み立てながら画集を進めることができていると考えられる。「情報の扱い方、我が国の言語文化」の領域では県平均を8ポイント以上も上回っている。自分の生活体験と結び付けて問題を解くことができている児童の割合が多いと考えられる。学習方略の努力調整方略が県平均よりやや低い傾向にある。問題に取り組む際、困難であろうと認知した場合、努力を続けることが難しいと感じてしまうと考えられる。その課題解決に向けて助言をしたり、筋道を立てる時間を確保したりして、努力することのよさを味わわせたい。そうすることで、やりぬく力も高まっていくと考える。</p>											

(3) 埼玉県学力・学習状況調査(令和6年4、5月実施)

※主な参考資料 帳票09、40

算数

学年	学力レベル				学習方略					非認知能力		
	R6レベル	昨年度からの伸び(+or-)	R5レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	向社会性	
4年	校内	4-B		R6数値	3.7	3.6	3.4	3.8	3.9	3.8	3.8	
	県	4-A		伸び +or-								
	<p>1 考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする))</p> <p>・学力レベルは県より1段階低いレベルである。学習方略と非認知能力については、認知的方略と向社会性が、県より-0.2低くなっている。 ・二次元表の見方について理解しているかを問う問題の正答率が県平均より約17.7ポイント低く、この問題で誤答した児童は、努力調整方略と向社会性の平均が学年平均より-0.3低くなって課題となっている。</p> <p>2 成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする)</p> <p>・努力調整方略や自己効力感は、県と同程度の数値となったことから、努力を調整したり、自分に自信をもって課題に取り組んだりすることについては県平均程度もっていたり、できていたりと考えられる。一方で、「二次元表の見方に付いて理解しているかを問う問題」と「努力調整方略」、「向社会性」に課題があったことから、情報を整理して、表にまとめる問題に多く取り組み、情報の整理の仕方を理解させるとともに、分からないことを友達に聞いたり、自分の考えを伝えたりする活動を取り入れていく。</p>											
学年	学力レベル				学習方略					非認知能力		
	R6レベル	昨年度からの伸び(+or-)	R5レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	自制心	
5年	校内	5-A	1	5-B	R6数値	3.8	3.8	3.3	4.1	4.0	3.8	4.1
	県	5-B	1	5-C	伸び +or-	0.3	0.1	0.0	0.2	-0.1	-0.1	0.1
	<p>1 考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする))</p> <p>・学力レベルは県より1段階高いレベルである。学習方略と非認知能力については、作業方略が、昨年より-0.2低くなっている。 ・ものの位置と表し方について理解しているかを問う問題の正答率が県平均より約8.3ポイント低く、この問題で誤答だった児童は、努力調整方略と自己効力感が平均して、0.2低くなっている。</p> <p>2 成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする)</p> <p>・学習方略の中で特に柔軟的方略と認知的方略がやや高い傾向にある。このことから、今まで学習したことを生かして学習に取り組んだり、学習していて分からないことがあったらすぐ先生に聞いたりすることの児童が多いと考えられる。学習方略の努力調整方略と非認知能力の自己効力感が県平均よりやや低い傾向にある。記述式問題も県平均から5ポイント近く下回っている。文章問題や記述問題に苦手意識をもっている児童も多く見られることから、難しい問題であってもあきらめずに粘り強く取り組ませるために、周りの友達や先生に聞き、自分の考えを再考する時間を確保したり、既習の知識を参考にしながら取り組ませたりするなどの方策をとっていきたい。</p>											
学年	学力レベル				学習方略					非認知能力		
	R6レベル	昨年度からの伸び(+or-)	R5レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	やりぬく力	
6年	校内	6-C	-2	6-A	R6数値	3.7	3.5	3.3	4.0	3.6	3.4	3.0
	県	6-B	1	6-C	伸び +or-	0.5	0.2	0.0	0.1	-0.2	0.0	0.0
	<p>1 考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする))</p> <p>・学力レベルは県と同等のレベルである。学習方略と非認知能力については、努力調整方略と自己効力感が、県より-0.3低くなっている。 ・割合を用いて、日常の事象を数量的に考えることができるかを問う問題の正答率が県平均より約14.3ポイント低く、この問題で誤答だった児童は、努力調整方略が平均して-0.3低くなっている。</p> <p>2 成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする)</p> <p>・学習方略の中で特に柔軟的方略が高い傾向にある。このことから、分からないところがあったら勉強の方法を変えてみたり、分からないところを重点的に学習したりすることができる児童が多いと考えられる。学習方略の努力調整方略と非認知能力の自己効力感が県平均よりやや低い傾向にある。問題に取り組む際、困難であろうと認知した場合、努力を続けることが難しいと感じてしまうと考えられる。また、自分ならできそう。うまくいきそうだと前向きに学習に取り組めない傾向がある。その課題解決に向けて助言をしたり、スモールステップで課題解決をしたり、筋道を立てる時間を確保したりして、努力することのよさや最後までやりぬく達成感を味わわせたい。</p>											

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組（低学年）

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①基礎的・基本的な知識を確実に身に付ける力。 ②既習の知識をもとにして、新たな知識を習得する力。	③話の内容を的確に読み取る力。 ④情報を取捨選択したり、比べたりする力。 ⑤理由や根拠を付けて自分の考えを書いたり、発表したりする力。	⑥学習に粘り強く取り組み、自分の考えを出そうとする力。 ⑦学習した内容を実生活に結び付けて、考えようとする力。 ⑧学習の見通しを立てたり、振り返ったりする力。



教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	①、③	①プリントを用いて、長音、拗音等正しい使い方を身に付ける時間を確保する取組。 ③短い文を読んだり、思ったことを話したり、聞いたり、書いたりする取組。	
算数	①、②、⑥	①繰り上がりのある20までのたし算、ひき算の練習を取り入れる取組。 ②既習事項を生かして、新しい学習を理解できるよう学習展開を工夫する取組。 ⑥図形の問題にて、全員が自分の考えをもつように工夫する取組。	
生活	④、⑧	④自分と地域、社会や自然との関わりを深めることを通して情報を取り入れる取組。 ⑧体験活動の中で、活動に見通しをもったり、振り返りをしたりする時間を取り入れる取組。	
音楽	①	①歌や音楽ゲームを取り入れて歌ったりリズム打ちをしたりして学習が身に付ける取組。	
図画工作	⑤	⑤自分の作品や身近な作品を楽しんで見る中で、感じたことを話したり、色や形、表し方のおもしろさを話し合ったりする取組。	
体育	⑤	⑤各運動遊びについての自己の動きの楽しさを見つけ、他者に伝える取組。	
英語活動	⑦	⑦実生活にも生かそうとする態度を養うために、身の回りの物事（色や文房具、あいさつなど）の発音を聞き分ける取組。	
特別の教科 道徳	⑧	⑧自分のやるべきことをやり遂げさせるために、見通しを立てて、計画を立てさせて、学校生活を送る取組。	

A・・・取組の効果が十分に見られた B・・・今後も課題として取り組む C・・・取組を見直す

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組（中学年）

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①基礎的・基本的な知識を確実に身に付ける力。 ②既習の知識をもとにして、新たな知識を習得する力。	③話の内容を的確に読み取る力。 ④情報を取捨選択したり、比べたりする力。 ⑤理由や根拠を付けて自分の考えを書いたり、発表したりする力。	⑥学習に粘り強く取り組み、自分の考えを出そうとする力。 ⑦学習した内容を実生活に結び付けて、考えようとする力。 ⑧学習の見通しを立てたり、振り返ったりする力。



教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	③	③音読をしたり、段落ごとに話の内容を要約したりして、内容を理解する取組。 ③重要な言葉だけを抜き取る取組や話の中心に気を付けて聞き、メモをする取組。	
社会	④、⑤	④地図帳などの資料から読み取ったことを比べたり、取捨選択したりする取組。 ⑤調べたことをまとめた新聞を主体的に発表する取組。	
算数	①、⑥	①繰り返しドリルやプリントを活用して、わり算の計算問題を解く取組。 ⑥図形の問題にて、既習事項から想起させ、自分の考えを粘り強く考える取組。	
理科	②、⑤	②既習をもとに、新たな実験の予想を立てさせてから実験する取組。 ⑤観察カードに、観察結果に加え、自分の考えも記入する取組。	
音楽	①	①器楽で取り組む曲で階名唱を取り入れ、繰り返し練習しながら楽譜をよむ取組。	
図画工作	⑧	⑧活動の前に作品制作の見通しをもたせ、鑑賞の後に振り返りをさせることで学習に対して見通しをもたせ、振り返る取組。	
体育	⑤	⑤各種の運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える取組。	
外国語活動	①	①簡単な語句や基本的な表現を身に付けさせ、ペアでの会話の後いろいろな人とコミュニケーションをとる取組。	
特別の教科 道徳	⑦	⑦自分を支え励ましてくれる人々に感謝の気持ちを持ち、みんなで協力し合って活動する取組。	

A・・・取組の効果が十分に見られた B・・・今後も課題として取り組む C・・・取組を見直す

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組（高学年）

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①基礎的・基本的な知識を確実に身に付ける力。 ②既習の知識をもとにして、新たな知識を習得する力。	③話の内容を的確に読み取る力。 ④情報を取捨選択したり、比べたりする力。 ⑤理由や根拠を付けて自分の考えを書いたり、発表したりする力。	⑥学習に粘り強く取り組み、自分の考えを出そうとする力。 ⑦学習した内容を実生活に結び付けて、考えようとする力。 ⑧学習の見通しを立てたり、振り返ったりする力。



教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	③、⑤	③文のまとまりを意識して、筆者の言いたいことを段落ごとにまとめ、文を要約する取組。また、それに対する自分の考えを書かせる取組 ⑤読書をすすめ、感想や紹介文などを書く取組。	
社会	④	④資料集や地図帳を積極的に活用し、複数の資料から読み取る取組。	
算数	①、⑥	①繰り返しドリルやプリントを活用し、小数の加減乗除の確実な習熟（位取りに注意する）を図る取組。 ⑥図形の問題を既習事項から想起させ、最後まで諦めずに粘り強く自分の答えを表現する取組。	
理科	②、⑧	②既習の学習事項や前の実験結果をもとに、新しい仮説を立てて、実験に取り組み、新しい知識を得たり、理解を深めたりする取組。 ⑧実験の予想を児童に立てさせたり、実験の計画から見通しをさせたり、実験の結果から考察、結論を導き出させて、振り返りをする取組。	
音楽	①	①毎回の授業で、今まで学習してきた音符やリズム記号、階名を使って読む取組。	
図画工作	⑤	⑤表し方の意図や特徴などを捉え、作品を鑑賞し、よさを味わったり、感じたことを友だちと話し合ったりする取組。	
家庭	⑦	⑦調理に必要な器具や食器の安全で衛生的な取扱いと1食分の献立を自分で考え、家庭でも実践する取組。	
体育	⑤	⑤本時の振り返りのときに、自分で気付いた運動のコツを友達に伝えたり、友達の動きのよさを発表し合ったり、健康に過ごすための方法を発表したりする取組。	
外国語科	①	①A L Tが実際に用いる表現を聞いたり真似したりして、やり取りの中で使う取組。	
特別の教科 道徳	⑦	⑦最後までやり抜く粘り強さを身に付けさせるために、自分の良さや課題を客観的に分析して、改善点を探す取組。	

A・・・取組の効果が十分に見られた B・・・今後も課題として取り組む C・・・取組を見直す

(2) 教育活動全体を通じた取組

本校の特色ある取組

○業前活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○「いきいきタイム」 ・漢字練習、辞書引き学習や読書習慣を身に付けさせるための一斉読書等に継続的に取り組ませる。 ・計算練習等に継続的に取り組ませる。 ・一人一人の児童の課題に応じたプリントを作成し、学習に取り組ませる。
○自学・自習能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・「e-board」等の学習アプリの活用を推進する。
○校内掲示物の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・教室、校舎内の掲示物を意図的、計画的に掲示することを通して学習環境を整え、児童の学習意欲の向上を図る。
○英語活動・外国語活動・外国語科の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の展開を工夫し、平方東小のオリジナルの学習の流れを作成したり、業前活動で書く活動を充実させたりして、知識・技能をより深めさせる。

家庭教育との連携

○読書活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での読書を推奨する。
○家庭学習の充実と習慣化	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の啓発を適時行う。 ・家庭学習の時間を学年×10+αとし、毎日家庭学習に取り組めるようする。内容については計算、漢字の繰り返しドリルやプリントを中心に知識・技能の向上を図る。 ・「家庭学習週間—いいこといっぱい！家庭学習」(太平中学校区小中連携事業) 隣接中学校の中間・期末テストによる部活動停止期間を中学校区の全校で家庭学習週間と位置付け、家庭学習の充実、学習週間の確立、自学自習能力の向上に取り組む。 ・冬季休業中の家庭学習における「e-board」の活用を推進する。
○学習支援ボランティア(学校応援団)の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科のミシン学習や、書写(毛筆、書きぞめ)の時間の学習支援を行う。
○教育活動の公開	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動の保護者への公開を行う。
○幼保小連携、小中一貫教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事への参加等、教職員や児童生徒の相互交流を充実させる。 ・幼保小連絡会や小中学校連絡会、太平中学校区一貫教育合同研修会を実施する。